

■ 島根県公立大学法人評価委員会からの平成29年度業務実績に関する評価を受けての改善策

評価委員会からの「大学の教育研究等の質の向上」項目に対する評価の遅れている点(課題がある点)	島根県立大学の改善策
<p>○ (浜田キャンパス・松江キャンパス) 学生アンケート回答率と教員フィードバック提出率が、出雲キャンパスと比較して低くなっている。平成29年度より授業公開を本格的に実施し、学生アンケート回答率や教員フィードバック提出率が前年度を上回る学期もあるなど、取組に成果が見られる点もあるが、今後、更なる取組の強化を図らねばならない。</p>	<p>□各キャンパスにおいて、学生による授業アンケート、教員によるフィードバック、FD 年報の作成を実施する。 □浜田キャンパスにおいては、アンケート回答率年間40%超、フィードバック提出率60%超を目標に以下の対策を実施する。 ①アンケートのスマートフォン対応化(スマートフォンで回答できるようシステム改修を行う。) ②アンケートページへのアクセス用QRコードを作成し、各講義室の出入口をはじめ学内各所に掲示する。 ③アンケート回答期間開始時に各教室でのPR キャンペーンを展開する。 ④教授会で目標達成への協力依頼を行う。 □松江キャンパスにおいては、平成29年度の授業公開・FD 連絡会の成果を踏まえ、以下の検討を進める。 ①授業公開とFD 連絡会の実施の期間や方法、要領等の改良・充実を図る。 ②新体制となる松江キャンパス全体として、授業公開における学外第三者意見聴取への取り組み方やSD の充実等も含めた、FD の在り方について検討を継続する。</p>
<p>○ 全てのキャンパスで前年度を上回る県内入学率となり、県内入学率増加に向けた取組に成果が出ているものの、浜田キャンパスは、依然として県内入学率が他キャンパスと比較して低いことから、さらなる取組が必要である。</p>	<p>□各キャンパスにおいて、志願動向及び入学者の学力について分析を行う。また、県内高等学校の進路指導部教員を対象とした進路指導懇談会や高校訪問等を通じて意見交換を行い、県内高校生の志願動向に関する情報収集を行う。 □平成33 年度入試からの大学入学者選抜改革への対応及び県内入学者比率の向上を図るため、全学入試制度検討委員会で全学的な制度設計を行うとともに、各キャンパスにおいては個別の制度設計を行う。入試制度変更の「2 年程度前予告」を平成30年中に実施する。 □高等学校には本学が発信・提供できる情報を明確に伝え、高等学校のニーズを踏まえた対応を行うことにより、県内高校からの志願者の増加を図る。浜田キャンパスにおいては、自己推薦入試が受験しにくいという高等学校からのニーズを踏まえ、以下2点を導入する。 ①資格試験の結果をセンター試験の見なし得点に換算する制度 ②11月の個別試験の段階で、合格の可能性がない受験生に早期の不合格通知を行う「二段階選抜」また、母校訪問プロジェクト(3 キャンパス)等の事業を継続し、本学学生が卒業した高等学校の教員や生徒とコミュニケーションを取る機会の確保を促す。 □県内高校、島根県公立高等学校長協会との意見交換の場を設け、本学の特長や展望、学生の取組などをPRする。</p>
<p>○ 海外留学、海外研修など国際交流事業参加者は165名となり、昨年度より18名の増となったものの、目標の年間180人以上には届かなかった。各キャンパスで参加者増への取組に成果が出ており、今後の取組に期待する。</p>	<p>□浜田キャンパスにおいては、より多くの学生が海外短期研修プログラムに参加できるよう、「異文化理解研修」、「海外英語研修」、「海外韓国語研修」、「企業体験実習(海外企業研修)」等の多様な海外短期研修プログラムを周知する。異文化理解研修においては、ホームステイの導入等、内容の充実を図る。海外企業研修においては、課題発見・解決能力の向上に向けて、課題解決型のワークを取り入れるなどプログラムを充実させる。 □出雲キャンパスにおいては、前年度研修参加者の学修成果を共有し、奨学金等の支援制度を周知するとともに、研修前後のオリエンテーション、報告会等を通じ、参加の意義を浸透させ、参加希望者の増加を図る。 □松江キャンパスにおいては、交流協定校であるセントラルワシントン大学との間で、語学研修の実施や奨学留学生の派遣などを通して交流を図る。平成31年度に新たに開講予定のアジア文化研修(ラオス)に向け、現地視察を行い研修内容を確定させる。</p>